

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



「リカレント研修」は「お役立ち度」ナンバーワン!

「附属幼稚園は、地域の役に立っているのか？」そう課題を突きつけられて3年。様々な試みとアピールに努めてきましたが、「リカレント研修」（現場で働いている人のための研修）の提供は、中でも想像以上の反響・効果がありました。



昨年度、1年間に研修に来て頂いたのは47名。何と全員に満足度評価で最高点（4点）をつけて頂いたのです。「主体的な子どもの姿を引き出す言葉の掛け方がわかりました。」「次の活動への切り替えのタイミングや声かけの方法がわかりました。」「トラブルも自分で考えさせ、解決させることを大切にしました。」場面ごとの具体的な援助や手立ては勿論のこと、担任と子どもたちの間に流れる空気感までも感じ取って頂き、自分なりの改善イメージを掴んだのか、みなさん揃ってスッキリした顔で帰って行かれました。

さて、このように、自分に足りないものや更にも身につけたい力を明確にして、自ら研修・研鑽を積む努力ができる職業人であることが、これからは一層求められます。自分の確立した手法やスタイルが通用しなくなる可能性を常に予測し、備えていかなければ、激しい社会の変化に対応できなくなるからです。

社会の変化に伴って、価値観が多様化しています。子育ても昔とは大きく変わってきました。教育の現場は、この現実を受け止め柔軟に対応しなければなりません。しかし一方で、人間の発達や原理や、子どもの本質が変わったわけではありません。教育のセオリーは「不易」です。とすると、これからは多様な子どもに合わせて、多様なアプローチができる力が必要です。



教師としての「引き出し」の多さが勝負です。そのために「リカレント研修」は有効です。特に小学校の先生方にはお勧めします。1日「引き出し」が10は増やせること請け合いですよ。（笑）

我が園の命が飛び出しただけで、一瞬にして、かわいいうちが、おぼあちゃん、本当にイメージできてますか？
幼稚園の正門前の横断歩道は、安全に配慮された特別な場所です。手引が離れる可能性は充分あります。あの編々模様の前では勝手に足が止まるくらいにでなければ不
と考えて、正門前は「試せる」唯一の横断歩道
も自分で止まるでしようか？後ろに立って様子
を見ましよう。止まらなければ肩を掴み止めて
できるような中・年少さんは2年間かかってそれ
ていきましよう。根気よく教え、少しずつ手放し
く子どもの命を守りたい園長は、今年もしつこ
く言わせて頂きます！「本当に身につける？」



本当に身につけている？
「トントントン止まれ！」

決めつけちゃ～いけません!3連発!



子どもはピーマンが嫌い？いいえ！
「ピーマン食べたい人！」「は～い！」
自分たちで育てると、ピーマンも
おいしいらしい！イッツマジック！

子どもは初めてのお客さまは人見知りする？いいえ！「これ焼き肉！食べて！」自分の世界に一瞬で引きずり込むつわもの揃い！やる～う！



子どもは楽器なんて興味ない？いいえ！「その楽器知ってる！クラリネット！」目を皿のようになって見つめ、ノリノリで聞く子が多数！すごっ。